

地方会議（北海道函館市）

1. 日時、場所

平成24年3月17日（土） 13時30分～15時30分
函館北洋ビル 大ホール

2. 参加者

地元の若手・女性の中小企業経営者等 140名

3. 参加者の意見

（1）出された意見数（課題別）

全体意見数	32
資金調達	3
経営指導・経営支援	5
技術力・人材（技能承継等）	5
取引関係（下請取引・流通構造等）	2
販路開拓（海外展開等）	1
若手・青年層の活力発揮	3
女性層の活力発揮	4
「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）	5
その他	4

（2）主な意見

【資金調達】

- ・ 足下の金融支援については充実しているが、根本的な改善にはなっていない。税理士や金融機関担当者等と連携を密にし、抜本的な財務体質の強化を図ることも必要。

【経営指導・経営支援】

- ・ 計画策定のみでなく実行面での人材やソフト面での支援があることが重要。
- ・ 『4月スタート、3月終わり』という国の支援の期間が1次産業の生産サイクルと合わない。年度をまたぐという事を柔軟に考えてほしい。
- ・ 若手や小規模事業者にとって、経営革新等の認定取得に係る書類作成が非常に難しい。

【技術力・人材（技能承継等）】

- ・ 戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン）は非常に良い制度であるが、函館の製造業の中心である食品加工が対象に入っていない。対象として

ほしい。

- ・ 近年は若手人材のレベルが低下していると感じる。これまでは社内の中核人材を育成する支援が多かったが、一般的な社員への教育支援、技術レベルの底上げのための施策が必要。
- ・ 求職者は中小企業の事業内容が分からない。中小企業の事業内容を知る機会があれば、求職者の目が中小企業にも向き人材確保につながるのではないか。

【取引関係（下請取引・流通構造等）】

- ・ 下請代金法の対象から95%の製品が外れている。下請代金法を変えれば資金繰りにコストを割くことなく中小企業がその労力を創業や販路開拓等に回せる。

【販路開拓（海外展開等）】

- ・ 海外で事業を行う意欲のある中小企業は多数あるが、最初の壁はやはり言語の壁。言語に長けた人材がいない中小企業には、保有している高い技術を海外に発信する手段がない。

【若手・青年層の活力発揮】

- ・ 創業系の融資は1年目のみのものが多いが、実情にあうよう、より長い期間を対象とした支援としてほしい。

【女性層の活力発揮】

- ・ 結婚・出産を機に仕事を辞め、その後再就職しようとする人の一番の不安は社会とのブランク。ブランクを気にせず働くための教育が必要。
- ・ 子育ての初期段階で少しでも男性に育児休暇をとらせ、目線をかえさせることが必要。

【「地域」の中の中小・小規模企業（商店街等）】

- ・ 人口減少、高齢化により商店街は疲弊。単発的な政策ではなく、長期的な視点で地域活性化施策をお願いしたい。

【その他】

- ・ 中小企業は、異業種・他企業との連携が重要だが、業によって行政の窓口が違うことが障壁となっているので改善して欲しい。